

平成28年度

全国学力・学習状況調査
本県の結果と今後の対策

基礎・基本の定着と活用力向上のために【概要】

全国学力・学習状況調査の結果及び「学校の授業づくり」と「児童生徒の家庭学習」の状況から分かる学力向上対策の概要を記載しています。

青森県教育庁学校教育課

授業づくりの状況と対策（学校質問紙調査）

下の図1～3から分かる学校の授業づくりの状況から、**思考力、判断力、表現力の育成に向けた対策**として、次の①、②がこれまで以上に必要となります。

- ①「授業において、児童生徒自ら課題を設定し、解決に向けて話し合う活動等対話的な要素を取り入れ、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにする」(図2)
- ②「国語において、日常の授業の中で、基礎・基本の定着を図った上で、児童生徒の実態を考慮して発展的な学習を取り入れる」(図3)

自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした。

図1

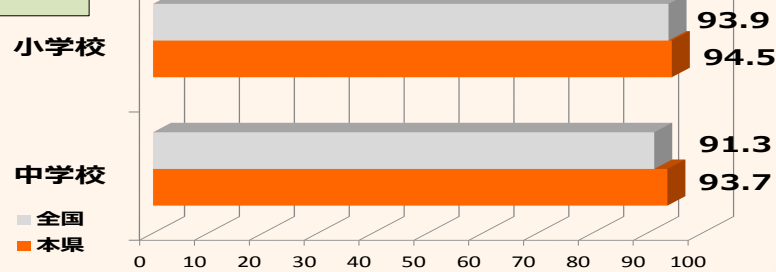
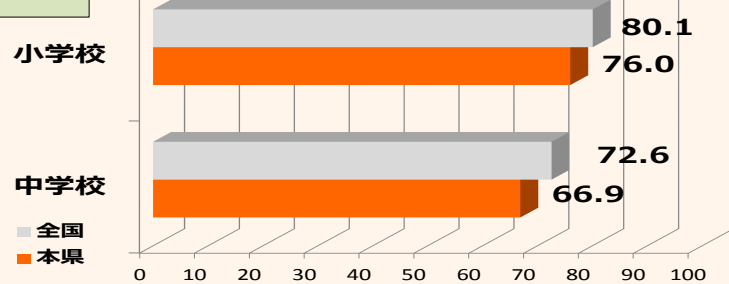


図1は、小・中学校とも全国を上回っています。

図2



課題の解決に向けて話し合い等の活動をした。

参考：質問「課題の解決に向けて話し合い等の活動をした」への学校の回答と平均正答率

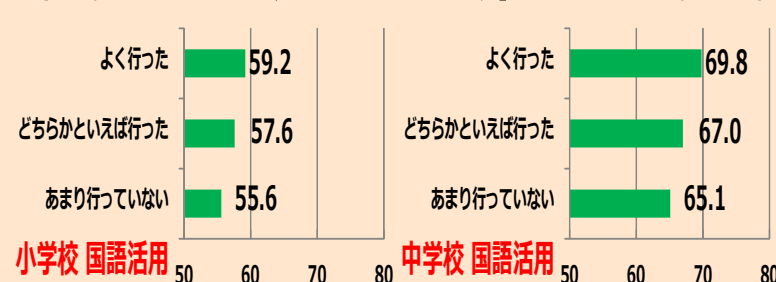


図3

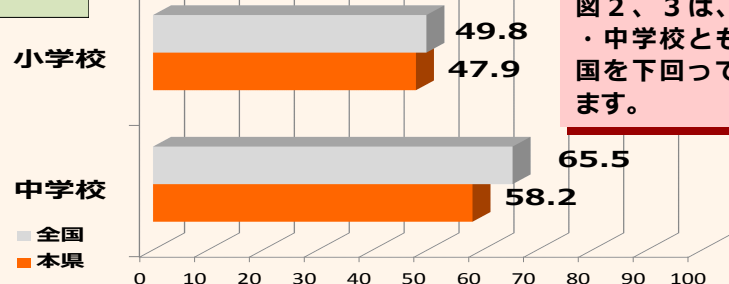


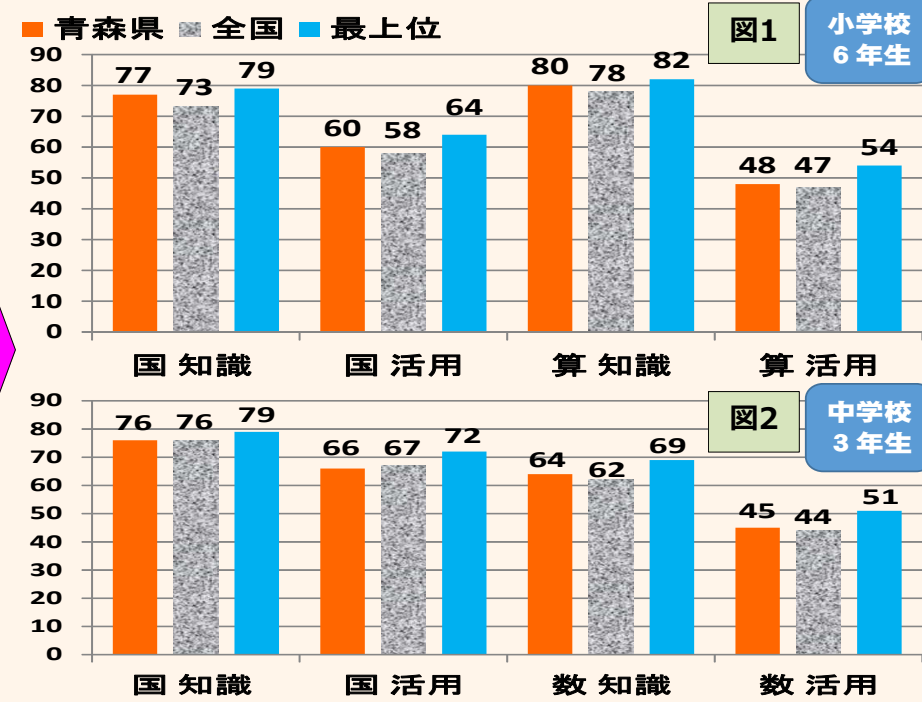
図2、3は、小・中学校とも全国を下回っています。

国語の指導を行った。発展的な学習の指導を行った。

学力の状況と対策（教科に関する調査）

本県の平均正答率を全国や最上位県と比較すると、次の①、②が分かります。

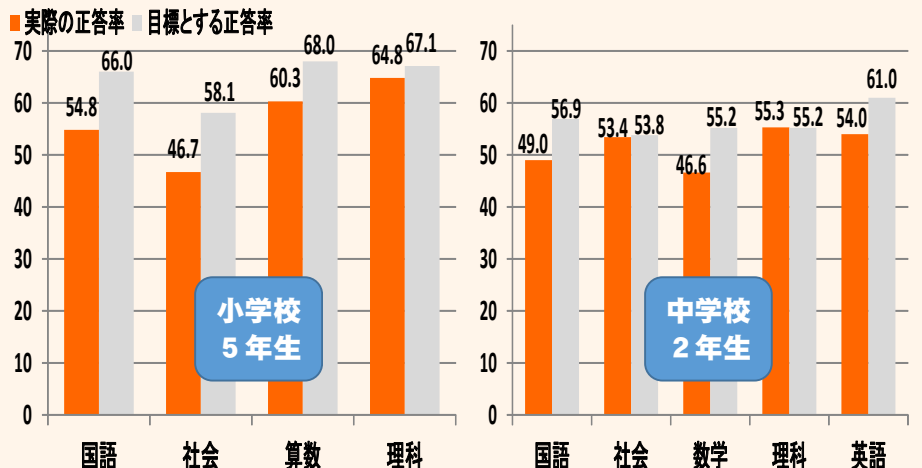
- ①「小学校は、**全ての教科**において全国を上回っており、**国語知識**や**算数知識**の本県と最上位県の差はわずかである」(図1)
- ②「中学校は、**国語知識**、**数学知識**及び**数学活用**において、平均正答率が全国平均と同じかそれ以上である一方で、**国語活用**は全国平均にやや届かず、**国語の活用する力**に課題がある」(図2)



正答率は、文部科学省と同様に小数点以下を四捨五入し、整数値で示しております。

学力の状況（H27県学習状況調査より）

小国語、小算数、中国語、中数学は、目標とする正答率に、7.7～11.2ポイントの差がありました。そのため、どの教科においても自校の分析を踏まえた早期の対応を一層求めています。(下图)



家庭学習の状況と対策（児童生徒質問紙調査）

下の図1～3から分かる児童生徒の家庭学習の状況から、**家庭学習の充実に向けた対策**として、次の①、②がこれまで以上に必要となります。

- ①「家庭学習の時間を確保できるよう、児童生徒が家庭学習の重要性を理解し、家庭での過ごし方を振り返る活動を行う」(図2)
- ②「家庭学習を計画的に行えるよう、児童生徒が復習と予習のバランスや得意教科と苦手教科のバランスを考えるなど、自分で家庭学習の内容を工夫して取り組めるよう指導する」(図3)

家で、学校の授業の復習をする。

図1

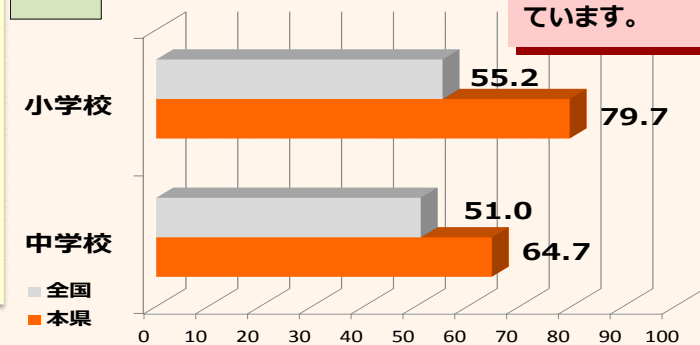


図1は、小・中学校とも全国を大きく上回っています。

図2

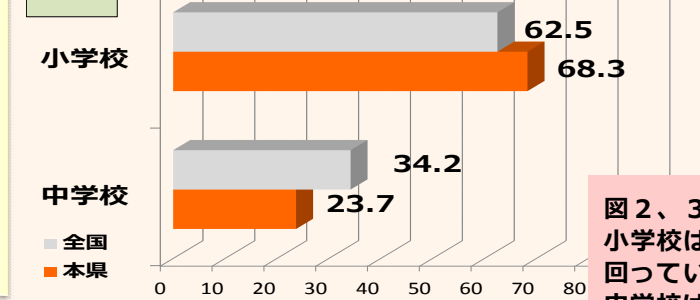
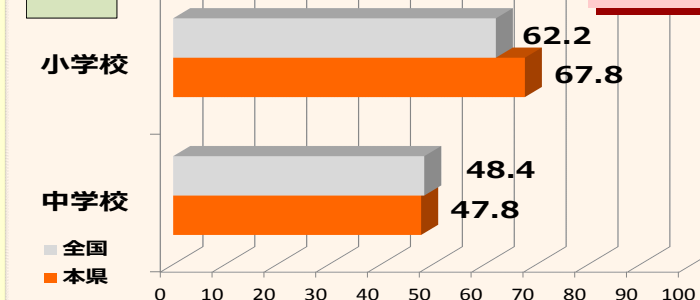


図2、3ともに、小学校は全国を上回っていますが、中学校は下回っています。

平日に小は1時間、中は2時間以上学習する。

図3



家で、自分で計画を立てて学習する。

参考：質問「自分で計画を立てて学習している」への児童生徒の回答と平均正答率

